

## 経営協議会・教育研究評議会合同会議議事要旨

日 時 平成29年 3月21日(火) 15:30~16:25  
場 所 創立50周年記念会館2階 岩木ホール

出席者 佐藤(学長・議長)  
(経営協議会)  
吉澤, 加藤(健), 伊藤, 郡, 大河原, 福田, 齋藤, 岡井, 加藤(丈),  
河田, 熊地, 永澤の各委員  
(教育研究評議会)  
柏倉, 今井, 戸塚, 若林, 木田, 加藤(博), 橋本, 北原, 島田(村岡  
代理), 檜垣, 山田, 嵯峨, 中根の各評議員

役員等陪席者 山内監事, 澁谷監事, 井口学長特別補佐, 神本学長特別補佐, 堀内学  
長特別補佐, 日景学長特別補佐, 藤岡学長特別補佐, 村下副理事

事務局・各学部等陪席者 石山総務部長, 久保田財務部長, 金澤学務部長, 高橋施設環境部長,  
亀谷研究推進部長, 小山社会連携部長, 齊藤学長戦略室企画調整役,  
中村国際連携本部調整役, 堀内総務広報課長, 浅利企画課長, 藤本人  
事課長, 石川教務課長, 土門入試課長, 古館研究推進課長, 長谷川総  
務広報課課長補佐, 今総務・秘書G係長, 遠藤総務・秘書G係長

### ◎ 配付資料

資料	平成28年度経営協議会・教育研究評議会合同会議資料
----	---------------------------

◎ 議事に先立ち, 学長から本合同会議開催に当たっての挨拶があった。

### ◎ 協議事項

#### 協議1 今後の課題等について

各理事, 各学部長, 各研究科長, 各研究所長, 附属病院長及び附属図書館長から, 配付資料に基づき, 今後の課題等について説明があった。

引き続き, 次の意見交換が行われた。(◇質問者, ◆回答者)

- ◇(加藤(丈)委員) 今回の各理事, 各部局長からの説明は, これまでになく弘前大学の現状と課題が良く分かった。今後もこのスタイルを是非続けてほしい。
- ◇これからの弘前大学における地元というものを考えたとき, 津軽と道南を同じに考えても良いのではないか。北海道新幹線の開通を機に青森県では県と道南地域を一つの経済圏として捉え, 発展させようとしている。これからの人材育成に当たっては, 新たな地域区分で人材育成を考えた方が良いのではないか。
- ◇米国では, 2019年から各省庁の決裁がデジタル化になると言われている。それに比べると日本のあらゆる部門でデジタル化・ネット化が世界の中で大幅に立ち後れている。研究活動やマネジメントの業務効率も大きく立ち後れているということを痛感している。弘前大学の各部門でデータのデジタル化・ネット化に力を注いで欲しい。そのことにより本学の「売り」になるような形になるだろう。

- ◆（学長）デジタル化・ネット化については、学内の管理運営部分についてはまだまだだと思っている。ただ、教育・研究については、まだ不十分ではあるが少しずつ進みつつある。特に教育については、デジタル化を進めることにより、学生の自由な自主的学習環境の整備が重要だと認識している。これから力を入れていきたい。
- ◇（河田委員）これまでAO入試を実施してきて、入学者の学力と入学後の伸びしろはどうか。優秀な学生を確保するという観点から、どういう効果を感じているのか。
- ◆（伊藤理事）AO入試は医学部医学科が先行して行っており、医学科のケースを見てもAO入試に期待している。他学部では始めたばかりであり、今の1年生の学習効果を分析している。その分析結果を基に「入学者選抜改革委員会」において今後のAO入試の在り方について検討していく。
- ◆（若林研究科長）医学科ではAO入試を導入して約10年になる。最初は30名からスタートし、今では50名位が入学している。当初は現役の高校生に限定していたが、3年ほど前から一浪も受け入れている。AO試験、前期試験及び学士編入学では学力的に違いは見られない。入学4年後に全国共通試験があり、それを入試形態別で成績を見ると、AO入試が学士と同じく一番良い。入学後の学習態度も良好であり、伸びしろという点でも決して悪いわけでは無い。医学科のAO入試の50名はそのまま地域定着卒の学生であるため、卒業後は地元に残って医療に貢献するという意味では、10年位掛かったがその効果が徐々に現れていると感じている。
- ◆（学長）医学科でAO入試を始めるに当たり、学力を重視した入試からの転換になるので、学生のレベルはどうかという議論があった。ただ、学力ばかりに軸足を置くのではなく、将来医師となるにふさわしい人材を求めるという事を目的にAO入試を導入した。そういう目的でやった以上は、たとえ学力に不足がある学生が入学しても、それをしっかり教育するのが大学の役割である。
- ◇（永澤委員）教育学部の課題に、「学部と附属学校園との協同的研究体制を再構築することにより、学部教員の教育実践的環境の充実を図る」とあるが、具体的にどのような内容か
- ◆（戸塚学部長）附属学校も他の地域の学校と同じ問題を抱えている。今回の附属改革は、まさに風通しをもっと良くしようということ。今までも学部と附属学校園の連携体制の構築ということをやってきたものの、もう少し密に、常にやり取りを行うように変えていくということ。例えば、附属学校の管理職の先生を学部の教授会等にオブザーバーも含めて出席してもらい、学部の方針を理解してもらおう。逆に学部の先生方も常に附属学校に行き来できる体制を作っていく。また、学生に対する教育実習の改革が進んでおり、今の3年生は週に1回は附属学校に行くなど、教育実習のある時期だけ集中して附属学校に行くのでは無く、継続的に行く体制がとられている。

以 上